

記者発表（資料配布）		本紙を含めA4：1枚	
月／日（曜日）	担当部課名	電話番号	発表者名 （担当者名）
令和5年2月9日（木） 午前10時00分	情報政策課 広報室	0790-82-0690	

第70回兵庫県広報コンクールで佐用町が二部門で特選を受賞 県代表として全国広報コンクールに出品

日ごろから本町の広報活動にご協力いただきありがとうございます。

県内各市町が令和4年中（1～12月）に発行・発表した各種広報媒体（広報紙・写真・映像作品）のうちから、優秀な作品を選び表彰する「第70回兵庫県広報コンクール」の各部門入賞作品が決定し、本町が広報紙部門（町の部）と一枚写真部門の二部門で特選となり、全国広報コンクールに出品しますのでお知らせします。

記

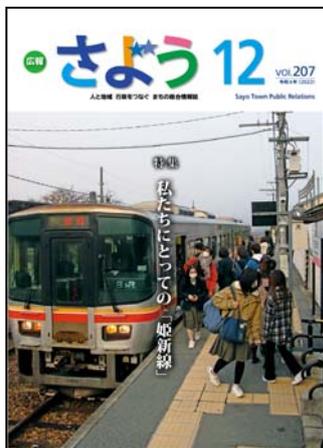
1. 受賞作品のあらまし

（1）広報紙

受賞したのは、JR西日本の県内ローカル線の収支状況の公表により、深刻な赤字路線のひとつと示された「姫新線」の置かれている状況を町民に再度知ってもらい、これまでの思い出やなくなった未来を考えてもらうきっかけとなるように特集した「広報さよう」令和4年12月号です。

（2）一枚写真

町が運営する昆虫館が実施した「いどうこんちゅうかん」での1枚。（令和4年7月号表紙）佐用町は田舎でありながら、昔より外で遊ぶ機会が減り、昆虫に触れることも少なくなりました。そこで、ゲームや動画ばかり見るインドアの遊びだけではなく、外で遊ぶことで昆虫などに触れ合えるなど「新しい発見」があることを町民に伝えたいと思い撮影した作品です。



▼広報さよう
令和4年12月号



▼広報さよう
令和4年7月号



2. 審査結果の詳細

(1) 主催

兵庫県、兵庫県広報協会

(2) 応募作品数

広報紙：町の部 4町、市の部 26市

一枚写真：29市町

組み写真：18市町

(3) 審査講評

・広報紙部門（町の部） 特選：「広報さよう12月号」

地域の重要な交通インフラが廃止の危機に瀕しているという切迫した問題をストレートにぶつけた13ページにも渡る渾身の特集。喫緊の課題である赤字ローカル線問題の歴史を紐解き、すでに廃線となった鍛冶屋線沿線からの「言伝」や利用者の願いを飾ることなく掲載した。簡単な問題ではないが、データも揃えて誠実に向き合った。「自分ごと」「それぞれの立場」「問題提起」の広報誌に必要な全てが入っているのは秀逸である。

・広報写真部門（一枚写真の部） 特選：「広報さよう7月号」表紙

シンプルな構図だが、バツタを手に乗せた男の子の目線や表情が絶妙で、自慢げに見えるし、集中しているようにも見える。それが撮影できたのも、スマホという普段見慣れた機器を向けたことからなのか、撮影者との距離感なのか、子どもに負荷をかけないさりげない撮影が偶然ではない1枚につながりました。全体のデザインとしても、ボケ感を活かし、男の子の表情が生きるように思い切ったトリミング、控えめなキャプション、そして男の子のカラフルな洋服と呼応するようなタイトルの色合いがうまくまとまり、一人の表情ながらイベント全体のワクワク感が奥に感じられる。

3. 受賞歴

広報紙部門（町の部）の特選受賞は、平成17年の合併以降11回目で、全国広報コンクールへの出品は4年ぶり9回目です。一枚写真部門の特選は初めての受賞となります。

4. その他

(1) 受賞式

2月16日（木）に兵庫県農業共済会館で開催される「令和4年度兵庫県広報研究大会」で受賞式が行われます。

(2) 全国広報コンクール

受賞した2作品は、県から広報紙部門2作品、一枚写真部門1作品選出される代表として、令和5年4月に行われる「令和5年度全国広報コンクール」に推薦されます。なお、全国広報コンクールでは、平成21年に2席、平成23年に特選（総務大臣賞）、平成24年に入選、平成26年に2席に選ばれています。